

葛飾北斎

すみだが誇る世界の絵師・北斎の生まれをたどる

両国
RYOGOKU

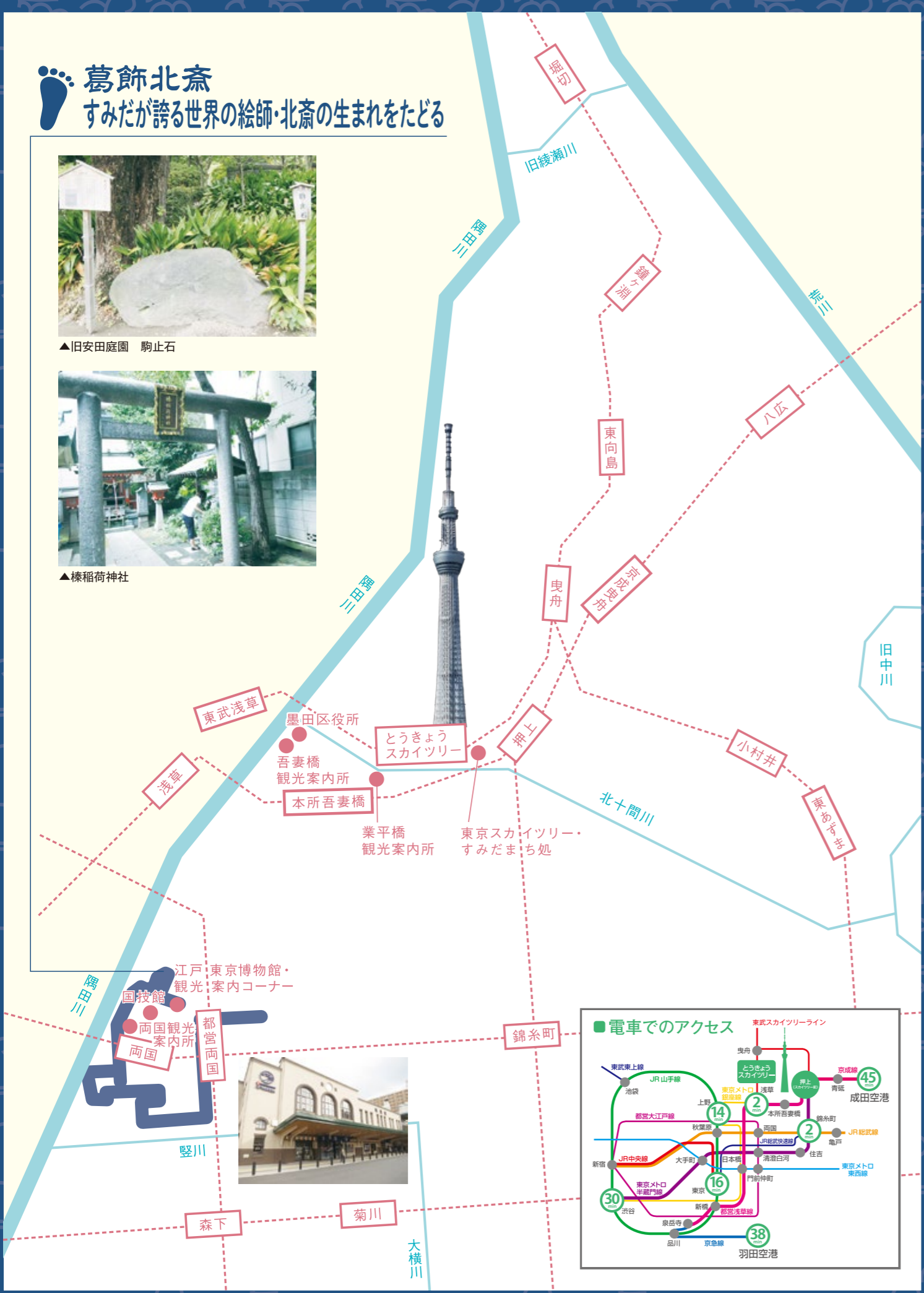
葛飾北斎
すみだが誇る世界の絵師・北斎の生まれをたどる



▲旧安田庭園 駒止石



▲榎稻荷神社



すみだ北斎美術館



葛飾北斎肖像画



おすすめスポット

- 江戸東京博物館内観光案内コーナー
- 旧安田庭園
- 回向院
- 両国橋
- 本所松坂町公園・吉良邸跡
- 烏亭焉馬住居跡
- 榎稻荷神社
- 葛飾北斎生誕の地
- 緑町公園（すみだ北斎美術館）

両国橋



葛飾北斎

すみだが誇る世界の絵師・北斎の生まれをたどる 両国

墨田区で生まれ育った世界の絵師・葛飾北斎。その作品は、世界中の芸術家に大きな影響を与えました。そんな偉大な絵師のルーツを、ゆかりの地を歩きながら探訪します。



1 江戸東京博物館内観光案内コーナー
江戸東京博物館内にあり、各種観光マップを用意しています。下町銘菓や絵巻書など、ここでしか手に入らないものもたくさん。両国観光のお土産にオススメです。
【営業時間】10:00~17:30、土曜18:30
【定休日】月曜 【電話番号】03-3626-0721



2 旧安田庭園
本庄氏の大名庭園として元禄年間（1688~1704）に造られた潮入回遊式庭園。北斎の「馬尽 駒止石」に描かれた石は、かつて隅田川岸にありましたが、現在ここで見るることができます。三代将軍家光の時代に隅田川が大洪水に見舞われた際、旗本の阿部豊後守忠秋が馬で隅田川を渡り、被害状況を検分しました。その時に馬をつなぎ止めた石がこの「駒止石」です。
【開園時間】9:00~16:30（6~8月は18:00まで）



3 回向院
10万人の命を奪った、明暦3（1657）年振袖火事による身元不明者を合葬、供養するため建立。後年は火災や震災、洪水による無縁仏も葬られるようになりました。北斎が生誕に何度か行った巨大な絵を縦横無尽に描く大パフォーマンスが、この寺の境内でも行われたといわれています。



4 両国橋
北斎の『絵本隅田川兩岸一覽 両国納涼一の橋弁天』には、いにしへの両国橋が描かれています。江戸屈指の盛り場、両国小路から、納涼の人出でにぎわうダイナミックなその風景を、現在の姿と比べてみるのも一興。



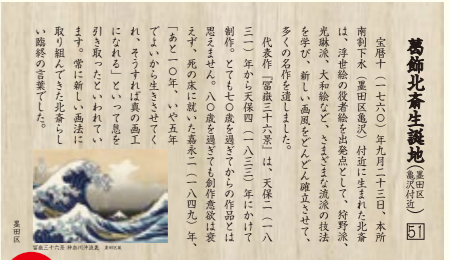
6 烏亭焉馬住居跡
大工の棟梁の子として生まれ、戯作者、狂歌師として活躍した焉馬の住居跡。北斎は焉馬の読本などに挿絵を描いています。



5 本所松坂町公園・吉良邸跡
北斎の『新板浮絵忠臣蔵第十一段目』には、ここ吉良邸への打ち入りの場面が描かれています。「浮絵」という様式で描かれている作品は、軒先や建物のラインが奥行きを感じさせます。



7 榛稲荷神社
晩年の北斎は娘のお栄と、本所亀沢町の榛馬場の近くに寄り住みました。北斎の弟子、露木為一が、北斎親子の暮らしぶりを「北斎飯宅之図」という作品に残しています。



8 葛飾北斎生誕の地
『富嶽三十六景』を描いた稀代の絵師、葛飾北斎は宝暦10（1760）年、本所南割下水（現在の墨田区亀沢周辺）で生まれました。



9 緑町公園(すみだ北斎美術館)
昭和5（1930）年に作られた公園。弘前藩津軽家の上屋敷があった場所です。公園内には、「すみだ北斎美術館」が平成28年11月に開館しました。



8 葛飾北斎生誕の地
9 緑町公園(すみだ北斎美術館)

すみだ北斎美術館

世界的な芸術家として名高い葛飾北斎（1760~1849）は、本所割下水（現在の墨田区亀沢周辺）生まれ。生涯のほとんどを区内の場所を特定できる作品も。その北斎の偉業を発信する場として、「すみだ北斎美術館」が平成28年11月22日に開館しました。

【定休日】1月1日~3日
【営業時間】9:00~19:00
【電話番号】03-3624-9733

ちょっと寄り道

東あられ本舗 両国本店

厳選した米や醤油を使用し、職人が丁寧に作り上げたあられを取り揃えています。なかでも、もち米の風味を活かした「北斎揚げ」が人気。北斎の作品をモチーフにしたパッケージも好評です。

【定休日】1月1日~3日
【営業時間】9:00~19:00
【電話番号】03-3624-9733

まち歩きには墨田区内循環バス「1日乗車券(300円)」も便利！バス車内で購入できるほか、産業観光プラザ すみだ まち処、吾妻橋観光案内所、両国観光案内所等でも販売しています。